

令和元年度 会報

埼玉県連合教育研究会

令和元年10月11日
 埼玉県連合教育研究会
 責任者 田中民雄
 事務局 〒330-0804
 さいたま市大宮区堀の内町1-99
 さいたま市立大宮東中学校内
 印刷 関東図書株式会社



埼玉県連合教育研究会
 会長 田中民雄

会員の皆様には、日ごろ埼玉県連合教育研究会の諸事業にご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

さて、令和元年6月12日の評議員会において、鏑木 隆前会長の後を受け、伝統と格式のある本会会長という大役をお引き受けすることとなりました。微力ではありますが、本会発展のために全力を尽くしてまいりますので、これまでと変わらぬご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

新元号「令和」になり、本会も昭和39年設立以来55年目を迎えました。本会は、県下全小・中・特別支援学校の教員約3万人が会員で、教科等研究団体19団体と地域教育研究団体55団体で構成された埼玉県下最大の教育研究団体です。本年度も下記、「活動方針と重点・努力点」に基づき、会員の皆様の自主性を生かした創意ある教育研究活動の推進をお願いいたします。そのためにも、会員の皆様のゆとりある働き方への改善と各種情報収集等の場が必要かと思ひます。

このことを受け、教科等研究団体には、昨年度、埼玉県教育局及びさいたま市教委と共に、研究活動の中で先生方の働き方改革に係る事業の見直しについてのご協力をお願いいたしました。本会事務局としても判を示すため、本部事業を見直し出張の伴う3つの会議を廃止し、メール等での連絡・報告等を行うこととしました。教科等研究団体には、これまでも毎年、事業の厳選に係る計画の提出をお願いしてまいりましたが、会員の皆様の自主的な研究活動の意欲を損ねることのないようにしながら、再度事業の見直しを図っていただければと思ひます。

また、地域及び教科等研究団体の情報交換を通し密接な連携を図れるよう、昨年10月にホームページを開設しました。ホームページには、学習指導に役立つ各教科等の研究をまとめた「研究集録付研究論文集」や「教育講演会の講演録」、「教科等研究団体へのリンク」等を掲載しておりますので、ご活用をお願いいたします。

令和元年度 活動方針と重点・努力点

<活動方針>

- 1 未来を切り拓く教育の創造を目指して、着実な教育研究活動を継続し、埼玉県公立小・中・特別支援学校等の教育の充実と発展に努める。
- 2 学習指導要領と埼玉県及びさいたま市等の教育行政施策を踏まえて、各教育研究団体の特性を生かし、真摯に教育研究活動をすすめ、「教育立県・埼玉」の実現に努める。
- 3 郷土埼玉を愛し、地域社会の発展やグローバル社会に貢献する人材の育成を目指して、質の高い教育研究活動をすすめ、その実現に努める。

<重点・努力点>

- 1 確かな学力の育成のため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教育研究活動を一層推進する。
- 2 豊かな心と健やかな体を育て、たくましく生きる力を育む教育研究活動を一層推進する。
- 3 キャリアステージに応じた教員の資質・能力等の向上を図るため、組織的・継続的な教育研究活動を一層推進する。

各研究団体におかれましては、本年度も、本会報の研究主題や研究活動に向けての自主的・創造的・組織的な日々の研究活動をより一層充実したものとさせていただけるものと期待しております。

結びに、埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会並びに日本教育公務員弘済会埼玉支部の皆様には、ご指導、ご支援をいただき心より御礼申し上げます。



ホームページ
QRコード

目次

●	会長あいさつ、活動方針と重点・努力点	1	●	教科等研究団体等の研究主題・研究内容	5
	令和元年度役員・評議員等名簿	2		地域教育研究団体の取組	9
	組織・運営図	3		事務局だより・研究論文入賞者研究論文の概要	13
	会費等の流れ	4		令和2年度研究論文募集要領	16

令和元年度 埼玉県連合教育研究会 役員・評議員等

1. 本部役員等

Table with 6 columns: 役職, 氏名, 所属, 役職, 氏名, 所属. Lists members of the main office including the President, Vice President, Secretaries, and various committees.

2. 教科等研究団体

Table with 4 columns: No., 研究団体名, 会長名, 所属. Lists 19 research groups across various subjects like Japanese Language, Writing, Social Studies, etc.

3. 地域教育研究団体

Large table with 8 columns: 旧事務所, No., 研究団体名, 会長名, 所属, 旧事務所, No., 研究団体名, 会長名, 所属. Lists regional research groups categorized by area: 南部, 北部, 入間, 比企, 秩父, 児玉, 大里, 北埼玉, 埼玉葛, 入間地区連合, 埼玉葛連合.

<令和元年度会員数 30,378名>

※1 越生班教育研究会【越生町・毛呂山町】
※2 小川班教育研究会【小川町・東秩父村】
※3 菅谷班教育研究会【滑川町・嵐山町】
※4 玉川班教育研究会【鳩山町・ときがわ町】
※5 秩父教育研究会【秩父市・横瀬町・小鹿野町・皆野町・長瀬町】
※6 児玉郡本庄市教育研究会【本庄市・上里町・美里町・神川町】

埼玉県連合教育研究会 組織・運営図



No.	教科等研究団体19
1	国語
2	書写
3	社会科
4	算数数学
5	理科
6	音楽
7	美術
8	保健体育
9	英語
10	道徳
11	特別活動
12	進路指導・キャリア教育
13	学校視聴覚
14	教育心理・教育相談
15	特別支援
16	学校図書館
17	中学校技術・家庭科
18	小学校家庭科
19	生活科・総合的な学習の時間

事務局
局長等
研究協議会

正副会長会 6名
・会長 1名
・副会長 5名

常任理事・理事会 21名
・会長 1名
・副会長 5名
・常任理事 10名<地域教育研究団体>
・理事 5名<教科等研究団体>

評議員会(総会) 98名
・会長 1名
・副会長 5名
・監事 3名
・常任理事 10名
・理事 5名
・評議員 教科等団体長 19名
地域団体長 55名

活動方針作成委員 8名
・会長 1名 ・副会長 2名
・常任理事 3名 ・理事 2名

会員【本年度 30,378名】
・公立小・中学校、特別支援学校
・埼玉大学教育学部附属小・中学校
・埼玉大学教育学部附属特別支援学校
・希望する私立中学校・特別支援学校等
・校長 ・副校長 ・教頭
・主幹教諭 ・教諭 ・養護教諭

事務局 4名
・事務局長
・幹事
・会報発行
・研究集録発行
・研究論文募集
審査・表彰
・講演会

配分金
旅費配当

会費負担金
講演会補助
論文応募表彰

助成：埼玉県・さいたま市・教育公務員弘済会

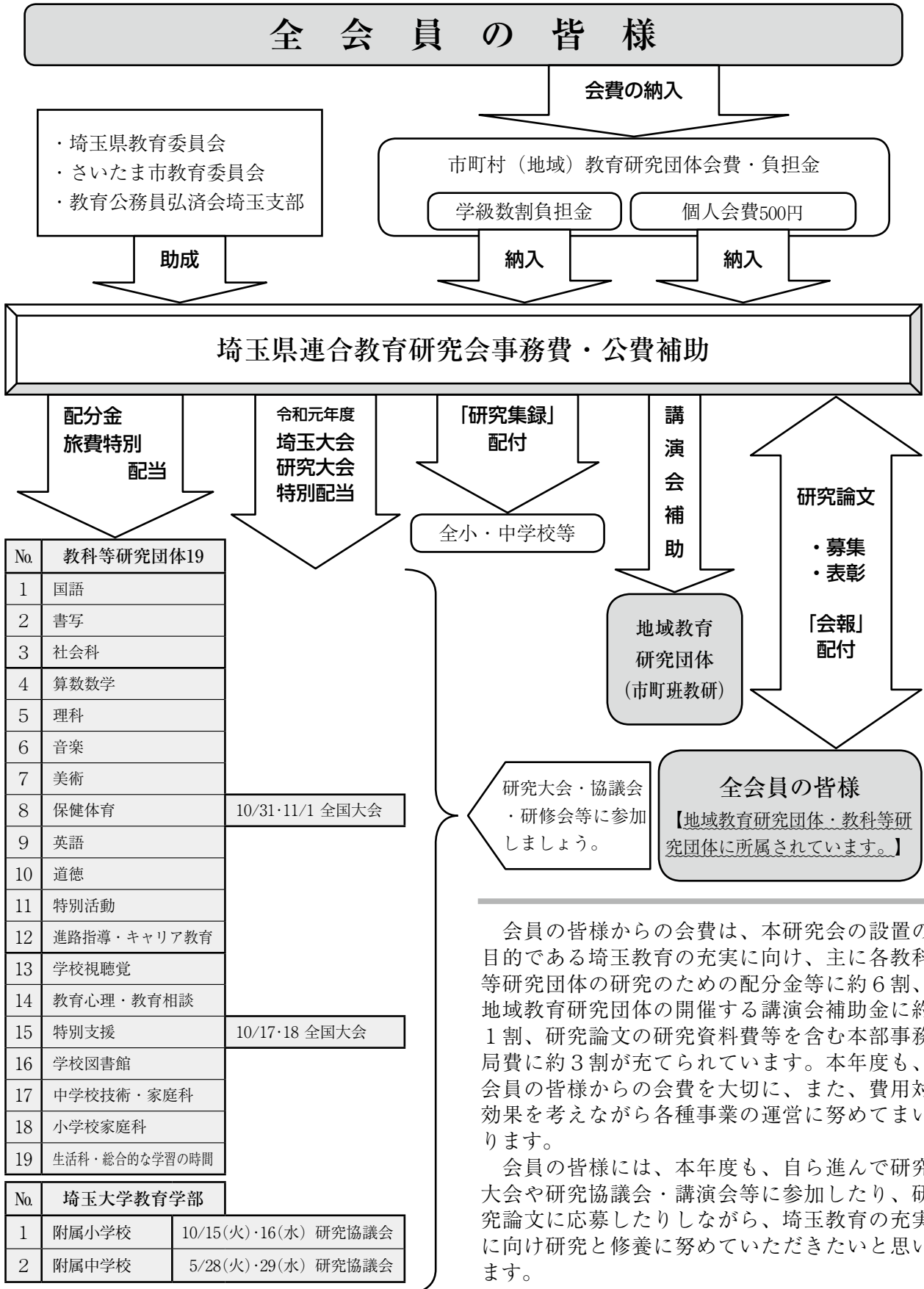
地域教育研究団体55 ※=複数市町村で構成		
1	埼玉大附属小	30 東松山市
2	埼玉大附属中	31 小川班※
3	さいたま市	32 菅谷班※
4	川口市	33 玉川班※
5	草加市	34 川島
6	蕨市	35 吉見
7	戸田市	36 秩父※
8	志木市	37 児玉郡本庄市※
9	朝霞市	38 熊谷市
10	新座市	39 深谷市
11	和光市	40 寄居町
12	埼玉大附属特別支援	41 行田市
13	鴻巣市	42 加須市
14	北本市	43 羽生市
15	上尾市	44 春日部市
16	桶川市	45 越谷市
17	伊奈町	46 久喜市
18	川越市	47 三郷市
19	所沢市	48 蓮田市
20	飯能市	49 幸手市
21	日高市	50 八潮市
22	狭山市	51 杉戸町
23	入間市	52 吉川市
24	富士見市	53 松伏町
25	ふじみ野市	54 白岡市
26	坂戸市	55 宮代町
27	鶴ヶ島市	— 入間地区連合
28	越生班※	— 埼玉連合
29	三芳町	

教科等研究団体の全国・関東地区教育研究大会の開催予定 (令和元年7月10日現在)

	全国大会 (埼玉大会)		関東地区大会 (埼玉大会)	
	小学校	中学校	小学校	中学校
令和元年度	保健体育、特別支援	保健体育、特別支援	特別支援	特別支援
令和2年度				
令和3年度	算数数学、特別活動	算数数学、特別活動	算数数学、学校視聴覚、小・家庭科	算数数学、学校視聴覚、道徳
令和4年度			道徳	
令和5年度			美術、学校図書館	国語、社会科、美術、学校図書館
令和6年度			生活・総合	進路・キャリア
令和7年度			音楽	音楽

埼玉県連合教育研究会の各事業は、会員【30,378名】の皆様の会費及び補助金等により運営されています

【会費等の流れ】



会員の皆様からの会費は、本研究会の設置の目的である埼玉教育の充実に向け、主に各教科等研究団体の研究のための配分金等に約6割、地域教育研究団体の開催する講演会補助金に約1割、研究論文の研究資料費等を含む本部事務局費に約3割が充てられています。本年度も、会員の皆様からの会費を大切に、また、費用対効果を考えながら各種事業の運営に努めてまいります。

会員の皆様には、本年度も、自ら進んで研究大会や研究協議会・講演会等に参加したり、研究論文に応募したりしながら、埼玉教育の充実に向け研究と修養に努めていただきたいと思います。

令和元年度

教科等研究団体及び 埼玉大学附属小・中学校の 研究主題・研究内容 《21団体》

1. 国語教育

埼玉県国語教育研究会

1 研究主題

「生活に生きて働く国語の能力の育成をめざす授業の創造」

2 研究内容

学習指導要領の趣旨を生かし、基礎・基本の定着を図るとともに、興味・関心を生かした多様な言語活動を工夫し、児童生徒の学習意欲を高めるための実践的研究を行う。

また、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育むとともに、言語感覚を豊かにするための実践的研究を行う。

2. 書写教育

埼玉県書写教育研究会

1 研究主題

「確かな書写力を身に付け、文字文化を大切にすることを育む書写教育」

2 研究内容

日常に資する技術向上研修と実践的研究を行う。

- (1) 研究発表会・講演会（5月 研究成果の口頭発表）
- (2) 実技研修会（8月 教職員の技術向上）
- (3) 授業研究会（10月 授業力向上）
- (4) 硬筆展・書きぞめ展の開催（6月・1月）
- (5) 研究集録の発行（3月 研究成果の紙上発表）

3. 社会科教育

埼玉県社会科教育研究会

1 研究主題

(小) 「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」

(中) 「追究する力を育てる社会科学習」

2 研究内容

- (1) 小・中学校地域学習研修会
- (2) ブロック別授業研究会

(3) 研究発表大会

過年度までの研究を継続して深めていくために、上記の行事を実施し、研究とその成果を広めていく。

また、本年度から令和5年度開催予定の関東ブロック中学校社会科教育研究大会と、令和10年度に開催予定の全国中学校社会科教育研究大会に向けての基礎研究を小・中学校で協働して進めている。

4. 算数・数学教育

埼玉県算数数学教育研究会

1 研究主題

「学ぶ楽しさを味わう算数数学の学習をめざして」

2 研究内容

学習指導要領の趣旨を踏まえ、教材研究を深め、指導内容の系統を明らかにし、算数（数学）的活動を重視した学習指導を展開する。

そのため、児童生徒の学習意欲を喚起し、数理的な処理のよさや数学のよさに気付かせ、算数・数学を活用できるよう学習過程や指導の工夫に努め、指導と評価の一体化を図る。

5. 理科教育

埼玉県理科教育研究会

1 研究主題

「自然を主体的・科学的に探究する資質・能力の育成」

2 研究内容

児童生徒が理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行い、根拠に基づく結論を導き出す過程を通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するための学習指導の研究および実践を行う。

- (1) 問題解決の学習過程を重視した指導の工夫
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善
- (3) 問題解決の力を育成する指導の工夫
- (4) 日常生活や他教科との関連を付けた授業提案
- (5) 指導要領全面实施に向けた準備の発信

6. 音楽教育

埼玉県音楽教育連盟

1 研究主題

「伝わる音楽」

～音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して～

2 研究内容

- (1) 音楽科における思考力・判断力・表現力を育む指

導の充実

- (2) 表現領域と鑑賞領域の関連を図る指導の充実
- (3) 我が国の伝統的な音楽の指導の充実

7. 図画工作・美術教育

埼玉県美術教育連盟

1 研究主題

「きらめく感性 つくりだす喜び」

～未来をひらく授業づくり「深い学び」の探求～

2 研究内容

- (1) 受け止めよう 子どもの心
 - ・子どもたち一人一人の心をしっかりと受け止め、励まし、豊かな心を培うこと
 - ・自分の心を見つめ、他者と心を通わせ合うことを大切にすること
- (2) 育てよう 確かな力
 - ・「確かな力」を生きて働く力ととらえ、育てたい力を具体的に明らかにし、学びを深めていくこと。
 - ・造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること
- (3) 深めよう 生き生き授業
 - ・子どもたちの実態に適した授業、子どもたちが生き生きと活動できる授業を構想すること
 - ・「主体的・対話的で深い学び」という視点も生かしながら、授業づくりのための手立てを豊かにすること

8. 保健体育教育

埼玉県保健体育研究会

1 研究主題

- (小) 「資質・能力をバランスよく育み、運動の特性や魅力を味わわせる授業の工夫」
「健康・安全に関する内容を実践的に理解させる保健学習の工夫」
- (中) 「生徒一人一人を伸ばす保健体育指導の実践」

2 研究内容

- (小) 「体づくり運動系」「ボール運動系」「保健」
- (中) 「陸上競技の特性に応じた効果的な学習指導の工夫」
「ダンスの特性に応じた効果的な学習指導の工夫」
「健康で安全な生活を営むための実践力を育てる保健学習の工夫」

9. 英語科教育

埼玉県英語教育研究会

1 研究主題

「21世紀を逞しく生き抜く日本人の育成を目指した英語教育

～コミュニケーションを大切にする生徒の育成～」

2 研究内容

各地区の代表の教員による、英語の学習指導や実践研究の発表や、それらに対する活発な意見交換を通して、教員の資質・能力の育成及び主題についての研究を深めたい。

また、日頃の学習指導の成果発表の場として、中学生を対象とした英語弁論大会を開催し、指導教員及び生徒の意識の高揚を図りたい。

10. 道徳教育

埼玉県道徳教育研究会

1 研究主題

「人としての生き方について考えを深め

よりよく生きる児童生徒を育てる道徳教育」

～学習指導要領が求める道徳教育の実践を通して～

2 研究内容

- (1) 8月「夏季研修会」

教材吟味と指導案作成により、授業実践、指導方法の改善について協議を行う。

また、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の 浅見 哲也 氏の講演会を実施し、理論と実践の研究を深める。

- (2) 11月「埼玉県道徳教育研究大会・上尾大会」

上尾市立上尾中学校を会場に、全学級公開による授業研究会、埼玉県道徳教育研究推進モデル校事業の研究発表、開智国際大学准教授 土井 雅弘 氏の講演会を実施し、授業実践と理論の両面から研鑽を深める。

11. 特別活動

埼玉県特別活動研究会

1 研究主題

「新学習指導要領における特別活動の展開

～集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる実践を通して～」

2 研究内容

特別活動で育成を目指す資質・能力を育むための手立てや方法についてより一層考えていく。

そのために、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる実践の充実を図る。

研究の内容として、「全体計画や年間指導計画、一単位時間等の指導計画の在り方」、「実践における指導と評価の方法」の2点を中心に研究を進める。

また、専門委員会（年3回）・定期総会・夏季研究協議会の開催、研究集録（第59集）・会報「特活」（年3回）の発行等の活動を通して、県内の特別活動の充実・発展を目指す。

12. 進路指導・キャリア教育

埼玉県進路指導・キャリア教育研究会

1 研究主題

「未来を見据え、主体的に生きる力を育てるキャリア教育の推進～小・中の連携を円滑に進めるための協同的な取組を通して～」

2 研究内容

小・中9年間で身に付けさせたい基礎的・汎用的能力と活動内容との関連表を、小・中学校の実践事例を踏まえて研究することにより、修正・改善を行っていく。

また、次期学習指導要領で活用できる学級活動の指導案集を作成する。

さらに、次年度からのキャリアパスポートの実践に向けて、検証していく。

年3回講師を招聘して、次期学習指導要領における進路指導・キャリア教育の在り方について研究する。

13. 学校視聴覚教育

埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会

《埼玉県学校視聴覚教育連盟》

1 研究主題

「心豊かに、自ら学び、主体的に活動する力を育む教育メディアの活用をめざして」
～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～

2 研究内容

教育メディアを積極的に活用することでプログラミング教育等を研究・実践する。その中で児童生徒が「自ら学ぶ力」と「主体的に問題を解決する力」を身に付け、生きる力を育むことをねらいとする。

《埼玉県放送教育研究会》

1 研究主題

「だれもが考える力を育み世界観を広げる
埼玉の放送教育」
～ひろがる つながる 深まる～

2 研究内容

日々の授業や研究活動を充実させ、放送活用を推進し、授業研究会・メディア研究会・放送コンテスト等を通して授業研究等の成果を広く発表していく。

《埼玉県教育機器研究会》

* 本年度休会

14. 教育心理・教育相談

埼玉県教育心理・教育相談研究会

1 研究主題

「通常の学級における発達障害児童生徒等の指導支援～社会性を育むスキル教育の実践と定着～」

2 研究内容

- (1) 通常の学級等において、発達障害を有する児童生徒をどう理解し、指導支援していくか、先行事例に学び、研究を深め、実践事例等を広める。
- (2) 社会性を育むスキル教育の実践と定着を図るため、各地区の事例や情報に基づいた研究を進める。
- (3) 定例の理事会・専門委員会において、教育心理・教育相談の課題等について研究協議を行う。

15. 特別支援教育

埼玉県特別支援教育研究会

1 研究主題

「幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえ、自立と社会参加につながる指導・支援の充実を求めて～全特連埼玉大会の開催とその成果を通じて～」

2 研究内容

- (1) 幼児児童生徒一人一人の障害の状態及び発達の段階や特性等に応じた効果的な指導の在り方を追究する。
- (2) 発達障害のある幼児児童生徒をはじめ、学習や生活に特別な支援を必要とする子に対する指導の在り方を追究する。
- (3) 全日本特別支援教育研究連盟全国大会埼玉大会【10月17日（木）・18日（金）】の成果等を踏まえ、新しい時代の特別支援教育の諸課題に応じた教育について研究し、本県特別支援教育の実践を進展させる。

16. 学校図書館教育

埼玉県学校図書館協議会

1 研究主題

「豊かな心と確かな学びを育む学校図書館の創造～主体的・対話的で、深い学びを支える
学校図書館教育～」

2 研究内容

- (1) 研究
学習指導要領の趣旨に基づき、学校図書館に関する管理運営・利用指導・読書指導・地域連携を中心に、学校・家庭・地域（公立図書館等・図書ボランティア）

ティア等)との連携を図り、学校の教育課程の展開に寄与する学校図書館を目指し研究を推進する。

(2) 事業

- ・集会 理事会、学校図書館研究大会、表彰式
- ・協議 第1～2回研究協議会、第1～2回研究部会
- ・研究 学校図書館授業研究会
(越谷市立大相模中学校)
- ・表彰 読感文・読感画コンクール審査、表彰式
- ・刊行 埼玉SLA会報87・88号、感想文・感想画集「真珠」
- ・広報 夏休み・冬休みの推薦図書案内
- ・参加 関東地区学校図書館研究大会
千葉大会(発表等)参加

(3) 調査

埼玉県学校図書館協議会沿革史CD-ROM化
(組織・総会資料・真珠。研究紀要等)

17. 技術・家庭科教育

埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会

1 研究主題

「未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する学習指導の研究」

2 研究内容

令和3年度の改訂学習指導要領の完全実施に向け、本研究会では、特に、本年度の第1学年から積極的に新学習指導要領による取組を進めている。

そこで、昨年度からの研究主題を引き継ぎつつも、各内容の題材計画を見直し、指導計画、学習指導案の作成・検討と授業実践を通して指導の充実を図る。

教科として育成すべき資質・能力を確実に身に付けさせる学習指導の在り方について研究を進めていく。

18. 小学校家庭科教育

埼玉県小学校家庭科教育研究会

1 研究主題

「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」
～くまがやラグビー・オリパラプロジェクトで、
生活をよりよくしようと工夫し実践できる
児童の育成～

2 研究内容

- (1) 熊谷市立熊谷西小学校における「第50回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会」の開催
- (2) 夏季研修会における講演会の実施
- (3) 「埼玉県小学校家庭科児童研究発表会」の実施
- (4) 会報39号の編集と発行

19. 生活科・総合的な学習の時間教育

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会

1 研究主題

「思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫」

2 研究内容

生活科における思考力・判断力・表現力、総合的な学習の時間における思考力・判断力・表現力について、考え方を整理する。具体的な実践例を基に、思考力・判断力・表現力の現れについて考察するとともに、児童生徒が変容したきっかけについて分析をし、教師の適切な支援についても整理したい。

生活科、総合的な学習の時間の授業場면을類型化して、それぞれの場面で求められる思考力・判断力・表現力やその評価についても整理し、思考力・判断力・表現力を高めるための指導方法について研究を進める。

20. 埼玉大学教育学部附属小学校

埼玉大学教育学部附属小学校

1 研究主題

「学びの本質」を育む授業の創造(8年次・本発表)～ともに広げ、ともにしほる思考力～

2 研究内容

- (1) 第87回小学校教育研究協議会

令和元年10月15日(火)・16日(水)に予定している。研究の最終年次として、各教科、健康教育の授業公開、提案を行う。

- (2) 校内授業研究会

個人の研究主題を基に、学校及び教科の研究主題を踏まえ、授業を通して理論の検証を試み、全員で研究協議(質疑・グループ協議等)を行う。

21. 埼玉大学教育学部附属中学校

埼玉大学教育学部附属中学校

1 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現による資質・能力の育成

2 研究内容

副題を～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の在り方～とし、「『主体的・対話的で深い学び』を単元・題材計画に意図的に配置すること」と「見通しと振り返り」を研究の視点として、実践研究を行った。【5月28日(火)・29日(水)】

令和元年度

地域教育研究団体の 取組

《15団体／55団体》

1. 戸田市教育研究会

会長 小高美恵子

本市研究会は、小学校12校、中学校6校に在籍する587名の会員によって組織されている。

1 本研究会の目的

本研究会では、日頃の教育活動の充実を図るとともに、教職員の資質・指導力の向上及び教育課題を解決することを目的としている。

2 主な事業

(1) 教科等研究部会

次期学習指導要領に基づく教育を遂行し、児童生徒の生きる力を具体化するため、EdTechやアクティブ・ラーニンググループワークを積極的に活用した主体的・対話的で深い学びを充実させる。

(2) 各教科等研究部会の活動

- | | |
|-------------|--------------------|
| ① 授業研究会 | ② 資質向上研修会 |
| ③ 実技研修会 | ④ 児童生徒作品展覧会 |
| ⑤ 児童生徒科学展覧会 | ⑥ 小学校音楽鑑賞会 |
| ⑦ 小中学校音楽会 | ⑧ 発明創意くふう展 |
| ⑨ 講演会 | ⑩ その他本会の目的達成に必要な行事 |

2. 和光市教育研究会

会長 來嶋実樹子

和光市教育研究会は、昭和57年に再発足し、現在に至っている。会員は、市内各小中学校教職員の291名の自主的な参加で、14の研究部により構成されている。

1 研究活動の理念（研究の重点）

「子どもから出発し、子どもに還る教育研究」という理念のもと、毎年活発な研究活動を展開している。

2 主な活動と事業

- 各研究部が、理念をもとに研究主題を設定し、研修会・授業研究会・実技研修会を実施する。
- 総会・一斉研究部会 5月15日(水)
- 教育講演会 8月21日(水)
演題 「姿勢の大切さ & 呼吸と笑いで快い動き」

講師 和光市スポーツ推進委員 適正姿勢指導士

松下 いづみ 氏

- 一斉授業研究会 11月15日(金)
- 実践報告会・一斉研究部会 2月7日(金)
- 広報誌「わこうの教育」の発行
「研究紀要〈第54集〉」の作成

3. 上尾市教育研究会

会長 金子泰雄

本会は、上尾市小学校22校、中学校11校の教職員約930名を会員として、23の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本会は、会員相互の研修により資質の向上を図り、もって上尾市立小・中学校の教育の充実に資することを目的とする。

2 主な事業

(1) 研究発表会及び記念講演会

・期日 平成31年1月7日(月)

・会場 上尾市文化センター

「音楽講演会～大切なものほどそばにある～」

講師 歌う道徳講師・シンガーソングライター

大野 靖之 氏

(2) 定期総会及び教育実践発表会

・期日 令和元年5月22日(水)

・会場 上尾市文化センター

研究主題

① 上尾市立大石小学校

「感性を働かせ、自ら考え、表現や鑑賞の活動に取り組む児童の育成」

② 上尾市立原市小学校

「楽しさを実感し、自ら学び、考え、学習に取り組もうとする児童の育成」

(3) 各研究部の活動

4. 川越市教育研究会

会長 長澤和明

本研究会は、川越市内小学校32校、中学校22校、特別支援学校1校の教職員1,378名の会員で構成されている研究団体である。本部役員会と25の研究部会で組織されている。本年度で69年目を迎えた。

1 本研究会の目的

教育の振興と職能の向上を図ること

2 主な事業

(1) 本研究会の活動

① 教育に関する研究及び調査

② 小中学校児童生徒・特別支援学校生徒の文化活動の研究

- ③ 講演会、講習会、研究協議会、体育会などの開催
- ④ 研究視察 等
- (2) 本部役員研修会（年6回）
- (3) 4月 一斉主任会
- (4) 5月 評議員会
- (5) 8月 教育講演会（ウェスタ川越に於いて）
演題 「最近の異常気象～竜巻、猛暑、豪雨～」
講師 気象キャスター 平井 信行 氏
- (6) 11月 研究協議会
3会場にて研究成果の発表と協議会
- (7) 3月 「会報」発行

5. 坂戸市教育研究会

会長 矢 島 彰

本会は、坂戸市内小・中学校に在籍する480名の教職員を会員として、28の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本会は、会員の職能を向上し、教育の振興を図ることを目的とする。

2 主な事業

- ・教育に関する研究及び調査
- ・講演会、講習会、研修会等の開催
- ・研修視察
- ・各種教育団体との連絡連携
- ・そのほか必要な事項

(1) 会議

- ・一斉主任会 4月10日（水） 勝呂小学校
- ・総会 5月8日（水） 勝呂公民館
- ・坂戸市一斉主任研修会 11月20日（水）

城山学園・桜中・坂戸中・住吉中

(2) 各研究部の活動

- ・主任研修会
- ・授業研究会
- ・各展覧会

6. 三芳町教育研究会

会長 蘇 武 伸 吾

本会は三芳町立小学校5校、中学校3校の教職員176名を会員として、29の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本会は、会員の資質の向上と親睦を図り、三芳町教育の振興に寄与することを目的とする。

2 主な事業

- (1) 一斉主任会
4月17日（水） 於 三芳町総合体育館
各研究部事業計画について
- (2) 定期総会

5月8日（水） 於 三芳町総合体育館
平成30年度事業報告・決算報告の承認
令和元年度事業計画案・予算案の承認 等

(3) 教育講演会

8月21日（水） 於 コピスみよし
演題 「伝わるデザイン」

講師 三芳町役場秘書広報課 佐久間 智之 氏

(4) 各研究部の活動

授業研究会、実技研修会、連合運動会、町内音楽会、美術審査会、町内美術展、硬筆書きぞめ審査会、町内書きぞめ展、現地研修会、研究協議会、情報交換会、学力調査の集計報告 等

(5) その他

新旧理事会、理事部長会（2回）、会計監査会

7. 小川班教育研究会

会長 関 口 岩 夫

本会は、小川町と東秩父村にある小学校7校、中学校4校の教職員約190名を会員として、34の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本会は、小川町・東秩父村小・中学校教育の進展を図ることを目的とする。

2 本部事業

- (1) 総会及び教育講演会
- (2) 全員研修会 7月30日（火）

・演題 「郷土に残る文化と産業から歴史を探る。」

・講師 小川町立図書館館長 新田 文子 氏

- (3) 理事会（年2回）及び理事部長会（年2回）
- (4) 専門部会（年1回）

3 研究部事業

- (1) 県や郡事業への参加

・硬筆展・書きぞめ展・科学振興展覧会・音楽会
・各種大会（球技・陸上・吹奏楽等）

- (2) 班の事業

・主任研修会・音楽会・研究発表会・交流会
・授業研究会・視察研修会・実技研修会等

8. 菅谷班教育研究会

会長 西 谷 和 彦

本会は、嵐山町立小学校3校、中学校2校及び滑川町立小学校3校、中学校1校の計9校の教職員207名を会員として28の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

班内の教職員が主体となって、職能の向上、教育の振興を図り、地域社会の文化発展に貢献することを目的としている。

2 主な事業

- (1) 理事研修会 4月5日(金)・2月28日(金)
- (2) 主任研修会・新旧理事会兼総会 4月9日(火)
- (3) 各研究部の活動
 - ① 授業研究会
 - ② 実技研修会
 - ③ 硬筆・書きぞめ展
 - ④ 図工・美術展
 - ⑤ 科学展・研究発表会
 - ⑥ 小・中学校音楽会
 - ⑦ 読書感想文審査会
 - ⑧ 発明創意くふう展

(4) 教育講演会

期日 7月31日(水)

会場 嵐山町北部交流センター

演題 「より良い教育環境を実現させるために」
～「伝える」から「伝わる」へ

仕事を楽しくするコツ～

講師 E-ComWorks代表取締役 山本 衣奈子 氏

9. 秩父教育研究会

会長 吉岡 章

本研究会は、秩父郡市の小学校23校、中学校12校の会員数637名、28の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本会は、本会教職員の資質の向上を図り、地域教育の振興に寄与することを目的とする。

2 主な事業

- (1) 理事研修会
4月12日(金)・7月9日(火)・2月4日(火)
- (2) 総会
5月9日(木) 代議員による総会・組織づくり
- (3) 各研究部の活動
5月～2月 各研究部主体による研修会・授業研究会を実施
- (4) 教育講演会
8月2日(金) 小鹿野町文化センター
演題：「心を柔らかくストレッチ」
～明日がきっと楽しみになります～
講師：声優 歌手 劇作家 作詞家

佐久間 レイ 氏

10. 児玉郡本庄市教育研究会

会長 関口 典夫

本研究会は、本庄市、上里町、美里町、神川町の小学校24校、中学校8校に在籍する教職員722名の教職員で組織され、30の教科領域等の研究会で構成されている。

1 本研究会の目的

本会は、児玉郡本庄市内における教育研究会の活動を通して、児玉郡本庄市の小・中学校の教育振興を図

ることを目的としている。

2 令和元年度の主な事業

- (1) 新旧本部役員研修会 4月10日(水)・23日(火)
- (2) 組織づくり 4月16日(火)・17日(水)
- (3) 理事研修会及び総会 5月8日(水)
- (4) 部長会議 7月4日(木)
- (5) 本部役員研修会 12月・1月
- (6) 各研究会の活動
 - ① 授業研究会
 - ② 硬筆展・書きぞめ展
 - ③ 美術展
 - ④ 科学展
 - ⑤ 音楽会
 - ⑥ 英語弁論大会
 - ⑦ 発明創意くふう展
- (7) 研究集録の作成
各研究会の研究概要・成果をまとめる。

11. 深谷市教育研究会

会長 茂木 隆資

本会は、深谷市内小学校19校、中学校10校の教職員685名を会員として28(小中別で53)の研究部で組織されている教育研究団体である。

1 本研究会の目的

本会は学校教育各般の研究を行い、深谷市教育の振興を図ることを目的としている。令和元年度、研究主題を「ふるさとを愛し、心豊かに、たくましく生きる児童生徒の育成をめざした、学校教育の推進」としている。

2 令和元年度の主な事業

- (1) 定期総会 5月17日(金)
- (2) 各研究会・主任会、
各部会、原則年度内3回の開催として主任会を行う。その他、小学校親善運動会、小中学校音楽会、各種作品展、特別支援学級の合同学習会を予定している。
- (3) 教育講演会
8月20日(火)、深谷市民文化会館を会場として、金子みすゞの詩を広く紹介した児童文学者 矢崎 節夫 氏を招いて行った。
- (4) 研究紀要の発行

12. 行田市教育研究会

会長 吉野 滋

本会は、行田市立小学校16校、中学校8校の教職員約450名を会員として、28の研究部で組織されている教育研究団体である。

1 本会の目的

本会は着実な教育課程の実施、学校運営の円滑化等を図るため、各主任会を本会の基本方針により運営し、その制約の中でよりよい効果的な相互研究の実を

あげることを目的としている。

2 本年度の主な事業

(1) 理事研究協議会 年2回

(2) 定期総会・研修大会 夏季休業中

第1部 総会及び実践発表

「主体的・対話的に学び合い、考えを深め
合える児童の育成」 行田市立南小学校

第2部 研修会

各ブロック校(小・中混合)に分かれて
ワークショップ型研究協議

(3) 各研究部の研究協議会、授業研究会、主催事業

・授業研究会 ・研究協議会 ・実技研修会等

・硬筆展、書きぞめ展 ・音楽会 ・読書感想文等

13. 久喜市教育研究会

会長 小山 隆二

本研究会は、久喜市立小学校23校、中学校11校の教職員730名を会員として、28の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本会は、久喜市立小・中学校教職員の職能向上と教育の振興を図ることを目的とする。

2 主な事業

(1) 全員研究協議会(年1回)

(2) 総会及び研修会

5月13日(月) 於 久喜総合文化会館

演題 「学習指導要領移行期に求められる授業改善」

講師 文部科学省初等中等教育局

視学官 瀨野 清氏

(3) 理事・部長会(年2回)

(4) 部長会(年2回)

(5) 主催事業

① 小学校陸上競技大会 ② 硬筆審査会

③ 小学校発明創意くふう展

④ 中学校発明創意くふう展・発表会

⑤ 中学校英語弁論大会 ⑥ 特別支援学級合同遠足

⑦ 読書感想文審査会 ⑧ 科学教育振興展覧会

⑨ 音楽会 ⑩ 美術展覧会

⑪ 書きぞめ展覧会

(6) 各教科等事業

(7) 研究集録「新久喜の教育」作成

14. 幸手市教育研究会

会長 内田 弘志

本会は、幸手市立小学校9校、中学校3校、計12校の教職員257名を会員として、27の研究部で組織されている。

1 本研究会の目的

本会は、市内小中学校職員の連携を密にするとともに、会員相互の研究活動を盛んにし、市教育の振興を図ることを目的とする。

2 主な事業

(1) 総会及び全員研究協議会(教育講演会含む)

5月7日(火) 幸手市北公民館

演題 「新たな授業づくりに向けて、今、考えること」

講師 幸手市教育委員会教育長 山西 実氏

(2) 市内文化財巡り

7月30日(火) 浄誓寺「将門の首塚」等

(3) 市教育委員会・市教育研究会委嘱研究発表会

(4) 各研究部の活動

① 授業研究会 ② 研究協議会 ③ 実技研修会

④ 硬筆・書きぞめ展 ⑤ 科学展 ⑥ 音楽発表会

⑦ 発明創意くふう展 ⑧ 読書感想文審査会

⑨ 手をつなぐ子らの交歓会(特別支援教育)

(5) 「研究集録」作成

15. 杉戸町教育研究会

会長 田中 健寿

本研究会は、杉戸町内小学校6校、中学校3校の教職員214名を会員として組織されている教育研究団体である。

1 本研究会の目的

本研究会は、関係機関、団体との緊密な連携のもとに、会員相互の連携を深め、教職員の資質の向上と人間性豊かな児童生徒の育成に努め、杉戸町の教育の充実を図ることを目的としている。

2 主な事業

(1) 総会 5月9日(木)

(2) 講演会 5月9日(木)

演題 「学力・学習状況調査を活用した学力向上」

講師 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事 橋爪 優氏

(3) 常任理事会 7月・12月・3月

(4) 理事・部長会 4月・7月・3月

(5) 教科等研究部の活動

① 研究集録作成

② 授業研究会、研究協議会

③ 小学校陸上競技大会と各種展覧会・発表会の開催

事務局だより

令和元年度本部事業計画

平成31年

4月1日(月) 各教育研究団体の役員名簿提出依頼

令和元年

- 5月14日(火) 平成30年度本部会計監査会
- 6月12日(水) 第1回正副会長・理事研究協議会
評議員会(総会)・全体研究協議会
平成30年度教育研究論文入賞者表彰式
記念講演会
講師 埼玉大学教育学部附属教育実践
総合センター教授 安原 輝彦 氏
- 7月10日(水) 教科等研究団体事務局長等研究協議会
- 9月6日(金) 研究論文応募締め切り
- 10月11日(金) 『会報第72号』発行及び全会員へ配付
- 12月6日(金) 編集委員会

令和2年

- 2月19日(水) 第2回正副会長会
- 2月27日(木) 令和元年度教育研究団体活動報告書提出(日本教育公務員弘済会埼玉支部)
- 3月4日(水) 教科等教育研究団体会計監査会
5日(木) 教科等教育研究団体会計監査会
6日(金) 教科等教育研究団体会計監査会
- 3月17日(火) 『研究集録付研究論文集』発行及び配付
- 3月27日(金) 教育研究団体活動報告書提出(埼玉県教育委員会)

被表彰

令和元年度「身体障害者福祉のための第61回埼玉県児童生徒美術展覧会」において、埼玉県連合教育研究会会長賞を、次の児童生徒さんが受賞されました。

おめでとうございます。

- 秩父市立大田小学校 第2学年
みやほら ぜんくろう さん
宮原 善久朗 さん
作品名 『トマトがたくさんの町』
- 熊谷市立富士見中学校 第3学年
あらい ひなり さん
新井 雛里 さん
作品名 『水晶』

全国・関東地区教育研究大会後援

◆ 全国教育研究発表大会後援 (2団体)

- 第58回全国学校体育研究大会 埼玉大会
令和元年10月31日(木)・11月1日(金)
大宮ソニックシティホール大ホール(全体会)
埼玉大学教育学部附属幼・小・中・高・特別支援学校
さいたま市立小・中学校、川口市立小・中学校
埼玉県立高等学校(分科会)

- 第58回全日本特別支援教育研究連盟全国大会
埼玉大会
令和元年10月17日(木)・18日(金)
大宮ソニックシティホール大ホール(全体会)
大宮ソニックシティビル会議室(分科会)

◆ 関東地区教育研究発表大会後援 (0団体)

『研究集録付研究論文集』原稿執筆研究団体

本会は、毎年3月に、『研究集録付研究論文集』を発行し、県内全小・中・特別支援学校等へ配付しています。

そのため、『研究集録付研究論文集』の原稿執筆については、教科等研究団体及び地域教育研究団体並びに研究論文入賞者等のご協力をいただいています。

教科等研究団体には毎年、地域教育研究団体には、4年に1回執筆をしていただいています。

なお、旧教育事務所の秩父地区、児玉地区、大里地区、北埼玉地区には、市町村の合併により変則的に原稿執筆を依頼しています。令和元年度は、下記の15地域教育研究団体に原稿執筆をお願いいたします。

会員の皆様には、所属の研究団体はもちろんですが、他の研究団体の研究および活動内容等についても是非、ご覧いただき、各研究団体の今後の事業の充実を図っていただければと思います。

- ① 蕨市教育研究会
 - ② 朝霞市教育研究会
 - ③ 鴻巣市教育研究会
 - ④ 北本市教育研究会
 - ⑤ 狭山市教育研究会
 - ⑥ 入間市教育研究会
 - ⑦ 鶴ヶ島市教育研究会
 - ⑧ 吉見教育研究会
 - ⑨ 秩父教育研究会
 - ⑩ 児玉郡本庄市教育研究会
 - ⑪ 熊谷市教育研究会
 - ⑫ 加須市教育研究会
 - ⑬ 越谷市教育研究会
 - ⑭ 三郷市教育研究会
 - ⑮ 蓮田市教育研究会
- ※12月上旬に依頼文を発送

平成30年度研究論文入賞者 研究論文の概要

● 研究主題

「児童の学びが持続し、生きて働く「言葉の力」を獲得するための国語単元の展開
～効果的な「カリキュラム・マネジメント」と「試行錯誤」過程の導入を図ることで～」
グループ研究代表 新座市立大和田小学校 主幹教諭 石川 周



1 研究の概要

文科省の報告によると、言語活動を通じた学びが成果を挙げている一方、児童にとっての「目的性」を十分に意識させることができず、「効果的」な学習になりきれていないことも指摘されている。その結果、言語活動は「手段」として機能せず、児童にとって、獲得感を伴った「言葉の力」の習得にまで結びつかない現状がある。当然、他の学習や生活に生きて働く「言葉の力」にはなりにくい。

また、本校の学校課題研究に取り組む中でも、「言語活動の形骸化」という課題が挙がってきた。単元の導入で、児童にとって「目的性」が明確な言語活動を仕組み、学習に対する意欲を向上させようとしてきた。しかし、児童の学ぶ意欲は持続せず、「言葉の力」の定着に不十分な場合もあった。学年で協議する中で、学びが持続しにくい点が以下の2点に集約されると共有できた。

- ① 単元の導入時（1次）に、児童の意欲が喚起されても、2次の学習を突破していくための方法（武器）を持ち合わせていないため、自信をもちにくく、主体的になりにくい。
- ② たとえ、2次での学習方法を教師から提示しても、獲得感を伴っていない方法であるため、児童が受け身のままの姿勢から脱却していないため、主体的になりにくい。

以上から、児童の学びが持続していくためには、児童の「目的性」に基づきながら、「獲得感」の伴った武器（学習方法）が活用できるような単元づくりに取り組む必要性があると強く実感した。

そこで、「できそうだ」という「期待感」、「できるようになってきた」という「効力感」の先行研究を手がかりとして、以下のように仮説を立てた。

- 仮説1：児童の「期待感」を高め、「効力感」を実感させることのできる
- 仮説2：単元を展開すれば、児童の学びは持続し、生きて働く「言葉の力」を獲得するであろう。

また、仮説を実証していくために、手立て①「『期待感』を生み出す効果的な『カリキュラム・マネジメント』」、手立て②「『効力感』を実感させる『試行錯誤』過程の導入」の上記2点の手立てを講じながら研究主題に迫った。

具体的には、平成29年度の6年生（3クラス120名）を対

象として、1年間に渡り書くことの実践に取り組んだ。

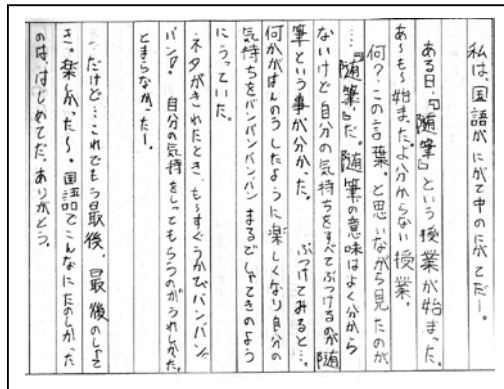
中心教材は、11月に実施した単元「みんなが読みたくなる随筆を書こう～卒業記念文集を私たちの手で～」(全7時間)である。他単元や他教科とのつながりを生かすことで、獲得感を伴った「言葉の力」の習得となり、次単元において「武器があるからできそうだ」という、期待感、見通し感をもった主体的な学習へとつながった。

また、何度も随筆を「書く」⇔随筆を「読む」と往還させることで、自然と「試行錯誤」過程となるような単元となり、「できるようになってきた」という効力感の実感へとつながった。その際、効果的に「交流」を仕組むことで、フィードバック機能が高まり、主体性も向上した。

2 結果と考察

本学習の実践後、「楽しかった」と回答した児童は、97%（6学年120名）であった。つまり、ほとんどの児童が、随筆の学習を楽しいと感じており、振り返り等からも「できるようになってきた」という手応え感、効力感を実感していることが実証された。

児童の書き上げた随筆の一例



上記は、「できるようになってきた」という内容を表す、まさに「効力感」をテーマにしたかのような随筆である。児童は、この随筆のように、ある瞬間から「できるようになってきた」という手応え感をつかみ、意欲が高まることで、児童の学びも持続したととらえることができる。

効果的にカリキュラム・マネジメントすることで、「学習方法」という武器をもった児童の「これならできそうだ」という「期待感」が高まり、見通しをもつことで、学習へのステップが低くなった。

また、試行錯誤過程となる単元となったこと、問題解決のために適切な評価情報がフィードバックされたことで、児童は「獲得感」を伴った効力感を実感することができ、学びが持続したことが本実践を通して実証された。

平成30年度研究論文入賞者 研究論文の概要

● 研究主題

「自己肯定感と集団意識の改善を目指した体育授業 半年間の実践記録
 ～基礎の定着と学び合いの充実を両輪として～」
 さいたま市立西浦和小学校 教諭 中村 直紀



1 研究の概要

A Iの進化、グローバル化、生産年齢人口の減少等を受け、社会は今後ますます予測困難なものになっていくといわれている。

このような状況を受け、令和2年度全面実施の新学習指導要領では、「生きる力」の理念をより具体化した「資質・能力の3つの柱」が明示されている。

私は、「生きる力」すなわち「知・徳・体」は、よい体育授業を通して実現できると確信している。

よい体育授業には「体」だけでなく、「知」も「徳」も内包されているためである。

また、よい体育授業を通し、成功体験と協力体験を多く積み重ねることは、児童の自己肯定感や集団意識にも良い影響を与えるに違いない。

そして、自己を信じ、他者と協力して課題を解決していく力は、予測困難な未来を児童が自らの力で切り拓いていくために、必要不可欠なものとなるであろう。

以上の理由から研究主題を上記のように設定し研究に励んでいる。

2 主題達成のための手立て

- 手立て(1) 自校体操の検討、作成、実施
- 手立て(2) 運動のオノマトペの考案と指導
- 手立て(3) パワーアップタイムの内容精選と充実
- 手立て(4) ドリルゲームの内容精選と充実
- 手立て(5) 掲示物による運動のポイントの可視化
- 手立て(6) 重点技能指導の実施・思考場面の設定
- 手立て(7) 問いかけ形式のワークシートの活用
- 手立て(8) 技能の優れた児童による示範の演示
- 手立て(9) タブレットを用いた伝え合い
- 手立て(10) 等質ペアによるスモールステップ学習
- 手立て(11) 集団達成型の授業展開
- 手立て(12) 本時の課題に即し、話し合う内容を絞った作戦タイムと振り返りタイム
- 手立て(13) タスクゲームの内容精選と充実
- 手立て(14) 得点シーン分析による、よい動きの発見
- 手だて(15) 絆を深め、仲間意識を強める時間の確保
- 手立て(16) アンケートの活用と、効果測定による客観的評価



タブレットの活用



ペア学習

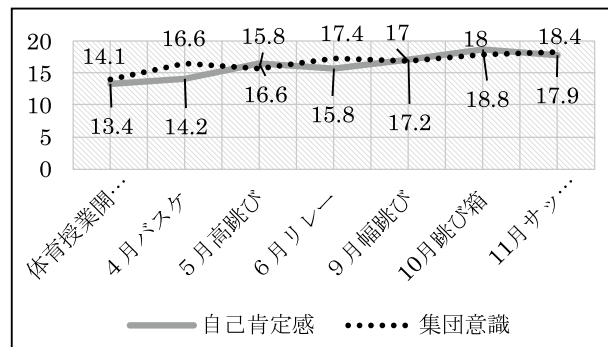


サッカーの掲示物



タスクゲーム

3 研究の成果と課題



- 「体育が好き／どちらかと言えば好き」な児童が、4月から11月で79%から91%に向上した。
- 全単元の学習前後において、「その単元の主運動が好き／どちらかと言えば好き」な児童数に増加がみられた。
- 全単元の学習において、効果測定の結果、児童の体力に向上がみられた。
- 児童の自己肯定感、集団意識ともに多少の増減を繰り返しながらも、高い水準へと収斂されていった。
- 個人に目を向けると、伸び悩み児童もいた。個や小集団に応じた支援、声かけのしかたを研究していく必要がある。
- 器械・陸上運動では自己肯定感が、ボール運動では集団意識が向上する傾向がみられた。
 今後は集団意識をさらに向上させる器械・陸上運動授業の在り方、自己肯定感をさらに高めるボール運動授業の在り方について、研究を深めていく。

令和2年度 研究論文募集要領

埼玉県連合教育研究会

研究論文を下記の要領で募集いたします。何とぞ奮ってご応募ください。

記

1 目的

日々の教育実践の中から生まれた研究を会員の皆様から募集し、これを広く発表することによって本県教育の振興に資する。

2 募集内容

教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動、進路指導・キャリア教育、視聴覚教育、教育心理・教育相談、特別支援教育、学校図書館教育等の児童生徒に直接かかわる実践的教育研究として、どのように計画し、仮説を立て実践し、さらに、その結果をどのように評価し、今後の教育実践にどう発展させるか等の研究であることとします。

3 応募資格

応募者は、県内の公立小・中学校に勤務する教員の個人及びグループの研究（学校としての研究も含む）であることとします。

4 応募規程

原稿の書式は、A4判縦長・横書き、横24字×縦46行×2段組で、パソコン入力（Word）により、4～6枚以内（写真、図表を含む）とし、文体は常体（「である」体）を原則とします。

また、研究論文には「表紙」を付け、その上に「応募票」を添付してください。

「表紙」には、①題名 ②氏名（グループ代表者名） ③職名、④勤務校を記入してください。

5 応募票

「応募票」は、ホームページの各種提出書類の「研究論文応募票」からダウンロードしてください。

「応募票」の電子データを希望される方は、下記電話・E-mailにて事務局までお申し出ください。

「応募票」は、「個人研究」・「グループ研究」・「学校研究」別に「表紙」に添付してください。

6 応募上の留意点

研究論文は、紙上未発表のものに限ります。

応募原稿は、返却しませんので、あらかじめご了承ください。

7 原稿等の提出

令和2年9月4日（金）必着 【令和元年度は9月6日（金）に締め切りました。】

「応募票」及び論文原稿等の提出については、下記事務局へ電子メールでの送付も併せてお願いします。

8 審査結果

審査結果は、令和2年12月中旬に各応募者に書面にて通知します。

9 表彰等

最優秀賞・入選・佳作等に選ばれた研究論文は、平成2年度『研究集録付研究論文集』及びホームページへの掲載を行い、入賞者には、本会評議員会（総会）後の入賞者表彰式にて表彰を行います。

なお、研究資料費として入選論文には7万円（最優秀賞は10万円）、佳作論文には5万円、選外の応募者にも薄謝を進呈します。

また、教職経験10年未満の方を対象に新人奨励賞（3万円）を設けています。

10 審査員

本部役員および編集委員

11 提出・問い合わせ先

〒330-0804 さいたま市大宮区堀の内町1-99

埼玉県連合教育研究会事務局

さいたま市立大宮東中学校内

TEL 048-641-0808 FAX 048-645-1922

E-mail saitamakenrengoukyouiku@jcom.home.ne.jp

ホームページURL <https://sairenkyou.jp/>

平30年度研究論文入賞者等

<入 選>

○ 児童の学びが持続し、生きて働く「言葉の力」を獲得するための国語単元の展開

～効果的な「カリキュラム・マネジメント」と「試行錯誤」過程の導入を図ることで～

【国語】

グループ研究代表

新座市立大和田小学校 主幹教諭 石川 周

<佳 作>

○ 自己肯定感と集団意識の改善を目指した体育授業半年間の実践記録

～基礎の定着と学び合いの充実を両輪として～

【体育】

さいたま市立西浦和小学校 教諭 中村 直紀